

トビ インサート

長野県のJAながのは、広域JAの総合力を生かし、組合員や地域住民にも頼りにされる「地域協同組合」の姿を目指す。資金需要の高い市街地を中心に地域密着の金融サービスを展開する一方、リングを主力とした農業振興や中山間地域の特産開発にも重点を置く。豊田実組合長に、多様な地域性を生かしたJA運営の戦略を聞いた。

——JAが広域合併して20年を迎えました。

支所単位を重要視

10月に長野市のホテルで、管内の農畜産物を使った料理を一堂にそろえて味わう「まるごとJAながのの収穫祭」を初めて開いた。20年の節目に、地元の農畜産物を見詰め

多様な地域性を生かす

JAの概況

長野県北部の長野 実が4割を占める。農産物直売事業は 員1万7334人
市、飯綱町、信濃町、直営店の他、スーパーへの出店で多店 舗を展開している。
▼貯金残高 23035億円
▼貸出金残高 728億円
▼長期共済保有高 1兆484億円
▼農畜産物
▼購買品仕
▼正職員数

総合力磨き農業振興



長野・JAながの
とよだ みのる
豊田 実 組合長

もしく思った。

——JAの現状をどう見ていますか。

管内は、県庁や長野駅のある長野市の中心市街地から平野部、過疎化が進行する郡部の中山間地域まで広域にわたる。地域が変われば、営まれる農業の品目や規模、経営形態は異なり、当然、組合員が求めるものも違ってくる。このため、JAの支所単位に地域の事情を把握し、事業運営や農業振興の戦略を組み立て、実践していくことが重要だ。その際にヒト、モノ、カネの何がどれだけ必要なのかを地域ごとに明確にし、それに対し支援をしていきたいと思っている。

——具体的なイメージ

直し、その価値を関係者で共有しようという狙いだ。私自身、これだけの農産物が生産されているのかと、あらためてその多様性に気づかされ、恵を出し合い、企画から運営まで全て自前でやり遂げた。また、イベント会社に任せておけるのではなく、支所や営農センターの職員も集まって知

販売高 67億円

供給高 92億円

人数 380人

(2012年2月末現在)

はありますか。

加工品開発にも力

人口の多い市街地・近郊地域では土地活用や住宅建設などに一定の資金需要があり、(貯金残高に占める貸出金の割合を示す)貯貸率が100%を上回る支所もある。こうした地域で広く支持される密着型の金融サービスを展開し、JAの総合事業全体を支える収益力を確保したい。農家との強い結び付きなど、JAは他の地域金融機関にはない競争力があり、勝負できる。

一方、農業振興のための営農指導や組合員の暮らしを支える活動もJAにとっては欠かせない柱だ。管内の農産物は多様で豊かだと指摘したが、逆に何でも作っていて特徴あるヒット商品がないのも課題だ。例えば「西山」と呼ばれる管内西部の中山間地域では、昔から品質の良い大豆

などの豆類が生産されているが、高齢化などで生産量が減ってきた。しょうゆなどの加工品を開発して、地域の顔になる特産を作ること考えた。

——これからJA運営をどう進めますか。

目標ナンバーワン

農家組合員の負託に応えていくことが基本だが、地域住民にもっと参画してもらう地域協同組合の発想で事業を展開していかなければならない。これは人口減少社会への対応や高齢化した組合員の世代交代対策の点からも必要なことだ。既に福祉活動や農産物直売所での地産地消の分野で実践が始まっているが、より一層地域を抱き込んだ取り組みを展開していきたい。住民や世間から、「リングと言えばJAながの」「金融の相談ならJAながの」というぐらゐ認知されるようになるのが目標だ。いろいろな分野で地域ナンバーワンを獲得していきたい。

(聞き手・大美博嗣)

(今回は26日付)